

対話的な言語活動を重視した英語授業の創造

ー 中学2年生のプレゼンテーションと質疑応答ー

田中 秀太郎

新学習指導要領・中学校外国語では、「話すこと」が「やり取り」と「発表」に分かれ、互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動の一層の重視を図っている。本稿では、当校2017年度の中学2年生で実践した「対話的な」授業について報告する。

1. はじめに

2017年3月に公示された新学習指導要領では、小学校に教科としての「外国語（英語）」が導入され、中学校外国語の目標や内容は、現行のものに比べてより具体的に詳細なものになった。現行の4技能のうちの「話すこと」を「やり取り」と「発表」に分け、全体で5つの指導領域としたうえで、領域ごとに3つの指導目標が示されている。また、目標を「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成と規定している。内容では「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと及び書くことの言語活動を通して」という規定を設定し、指導法にも触れている。新学習指導要領は「目標」を包括的に示しながら、指導法や目標を構成する3つの要素を分析的、具体的に示しているのが特色である。

このような改訂が公示された後、当校の第47回教育研究会で公開授業を行う機会を得た。英語科の研究主題は、前年度から引き続き「思考力・判断力・表現力を育む英語授業の創造」であるが、新しく設定された領域である「話すこと [やり取り]」の実践を公開授業で提案したいと考えるようになった。本稿では、2021年度の新学習指導要領全面実施を見据え、中学2年生で実践した授業について報告する。

【新学習指導要領（中学校外国語）の要点】

○ 育成すべき資質・能力の3つの柱

- ・ 「知識及び技能」
- ・ 「思考力、判断力、表現力等」
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」

○ 5つの領域

- (1) 「聞くこと」
- (2) 「読むこと」
- (3) 「話すこと [やり取り]」
- (4) 「話すこと [発表]」
- (5) 「書くこと」

○ 「話すこと [やり取り]」の目標

- ア 「関心のある事柄」, 「即興で伝え合う」
- イ 「日常的な話題」, 「事実や考え, 気持ちを整理し, 伝えたり, 質問に答えたりする」
- ウ 「社会的な話題」, 「考えたこと, 感じたこと, 理由を述べ合う」

2. 中学2年生の英語授業

新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、具体的に何をすればよいのだろうか。「やり取り」は「話すこと」の技能に入っているが、「やり取り」には「聞くこと」も入ってくる。また、「書くこと」でも、互いに書いたものに対して質問や意見を交換することができる。使用教科書では、言語活動の過程が「聞くこと」→「話すこと」→「書くこと」の順に配列されているが、「やり取り」は複数の技能を有機的に結び付ける要の役割を果たすものであると考える。

(1) 「聞くこと」について

「聞くこと」は、基礎英語や3分リスニングといった日常的に行っている帯活動を指すものであるが、ここでは、ティーチャー・トークの果たす役割について考えてみたい。

【公開授業でのティーチャー・トーク（抜粋）】

This morning, I had a *chou a la crème*, a cream puff, for breakfast. I have two reasons. First, it's my habit. When I have something very important, I always eat a cream puff. Second, my wife gave a cream puff to me. It's November 22nd today. It's a special day. So I had a cream puff. Thank you.

日本人教師は英語のネイティブではないので、それゆえに、英語をコミュニケーションの手段として使おうとしている姿勢を見せることは重要である。そうした教師の挑戦を目の当たりにする生徒は、少しずつ自分の英語に対して自信を持って使えるようになるであろう。ティ

一チャター・トークの内容は、学校行事、休日の計画、日常の出来事など、身の回りのことで生徒が共通して関心を持っていることを扱うようにしている。

(2) 「話すこと」について

例1~4は、いずれも帯活動のスピーキングで使用した自作教材である。例1, 2は、1年次に扱ったものを中心に「関心のある事柄」を題材とし、これには小学校での学習やこれまでの経験の中で触れてきた語彙や表現を含め、中学校での既習事項を繰り返し使用させるねらいがある。教材のモデル文は、スロー・ラーナーへの救済策で、必要な箇所をほかの表現にかえて、英語を話す練習ができる。

例1：「朝食」について

What did you have for breakfast?

Becky: What do you have for breakfast?

Saki: I often have toast and milk. How about you?

Becky: I have rice and miso soup.

Saki: Really?

Becky: I also have an egg, *natto*, and tofu.

Saki: Oh, you eat a lot!

Becky: I'm hungry in the morning.

(備考) モデル文は、教科書『NEW HORIZON 1 English Course』Unit 5 より。

例2：「週末」について (体育祭明けの授業で使用)

How was your weekend?

Our school had its sports day today. Many people came. We ran races. We jumped rope. We played tug-of-war. My team did not win, but win or lose, we all had a good time.

(備考) モデル文は、教科書『NEW CROWN 1 New Edition』Lesson 9 より。

2017年、英検3級と準2級でライティング・テストが導入された。これをきっかけに、例3を使用して自分の考えとその理由2つを表現する練習を始めた。理由に具体例や説明などを加えることで、説得力のある内容になる。やがて、「夏か冬か」や「弁当か給食か」といった二項対立型の発展的な活動へつなげることができる。

例3：「好きな季節」について

What is your favorite season? Why?

My favorite season is _____. I have two reasons.
First, _____

Second, _____

例4は、「日常的な話題」を題材とし、自国の文化を紹介するものである。英語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、生徒は思考・判断・表現しなければならない。

例4：「鍋」について

What's this picture about?

Your friends from different countries want to know about the picture. Please tell them about it.



英語を話せるようになるためには、できるだけ良質の英語を記憶し運用する、インプット→アウトプットの流れが大切であると考え。インプットに必要な題材は教科書に豊富にあり、授業でいかに教科書を活用できるかを重視している。次の出題例は、ALTとのチーム・ティーチングの授業(Jeopardy)で使用したものである。生徒は5人でグループを作り、形式は問題の難易度に応じて得点が高くなる早押しクイズである。教師は○印の問題から出題し、生徒が正解したら、☆→★印の順に出題する。生徒はあらかじめ教科書を復習しておき、授業中は教科書を見ずに問題に答える。この活動により、授業後に生徒が再び教科書を復習することが期待できる。

【教科書『NEW CROWN 1 New Edition』からの出題例】

○ What is "language arts"?

→It is a school subject in the USA.

☆ What do the students do in class?

→They read books. / They practice speeches. / They make posters in a group.

★ Do you want to study abroad in the future? Why?

○ Ms Brown was telling Ken about her family. How many other members are there in her family?

→There are four; parents, a brother and a sister.

☆ Where do her parents live?

→They live in London / the UK.

★ What do you know about the UK? Tell us.

○ Alice fell down the hole and went to Wonderland.

What or who did she see on a high wall?

→She saw a big egg / Humpty Dumpty.

☆ Humpty Dumpty got angry with Alice. Why?

→She said, "I like your belt."

However, it was not a belt.

It was a tie around his neck.

/ Because she sang, "Humpty Dumpty sat on a wall.

Humpty Dumpty had a great fall."



★ You are not getting along well with your parents or friends. What will you do to have a good relationship with them?

(3) 「書くこと」について

生徒は1年次より、「自己紹介」, 「日記」, 「印象に残る出来事」, 「新年の抱負」など, 多岐にわたるテーマについて英語で書く経験を積んできた。1年次は「できるだけ積極的に書くこと」とし, 語数制限を設定していなかったのに対して, 今年度は内容の質を重視し, 「100語程度で書くこと」としている。主なテーマは, 「好きな物語・昔話」, 「自分の夢」, 「新しい国民の祝日の提案」, 「都会暮らしか田舎暮らしか」などである。授業で実際に話した内容を家庭学習で書くことによって, その内容がさらに深まり, 次に同じようなテーマで話す活動を行った場合, 生徒の話す英語の質が高まっていることなどが期待できる。中には, 定期考査などでの答案採点后, チェックを受けた箇所を中心に文章を書きなおし, 再度答案を持ってくる生徒もいる。こうした熱心な努力と発語練習によって, 生徒の話す力は着実に高まっている。

【テーマ作文の答案採点例 (2学期中間考査より)】

Hello every one. Do you have your dream? I don't have my dream, but I'm interested in pharmacist. I have two reasons. First, my aunt is a pharmacist. I respect her very much, so I'm interested in pharmacist's works. Second, I want to be like them. Do you know about the contents of the pharmacist's works? Their works are not only mix medicines but also drug inspectors. They work in the public offices. Pharmacists work for many places. In conclusion, people need to more medicines in the future. I want to study about the medicines well and I want to help many people.

(03) words

3. プレゼンテーションの指導

9月に, 教科書 Lesson 5 Uluru の内容に関連して「旅の楽しさと地域文化を尊重することについて考える」というテーマで第1回プレゼンテーション発表会を行い, 生徒はどのようにすれば聞き手に効果的に伝わるプレゼンテーションができるかを考えた。その後の授業では, プレゼンテーションをより効果的なものにするスライドやプレゼンテーション後の質疑応答を工夫することなどについて取り上げ, 次の単元計画のように, 第2回プレゼンテーション発表会に向けて準備を進めた。あとの資料1~4は, それぞれ第1時, 第2時, 第3時, 第5時の授業で使用したものである。

【単元計画】

- 第1時 GET Part 1, 第2回プレゼンテーション発表会の予告
- 第2時 GET Part 2, 第1回プレゼンテーション発表会の振り返り (質疑応答について)
- 第3時 GET Part 3, 第1回プレゼンテーション発表会の振り返り (発表について)
- 第4時 USE-Read (1)
- 第5時 USE-Read (2), 第1回プレゼンテーション発表会の振り返り (スライドについて)
- 第6時 USE-Speak (1) (プレゼンテーションなどの準備 (1))
- 第7時 USE-Speak (2) (プレゼンテーションなどの準備 (2))
- 第8時 USE-Speak (3) (プレゼンテーションなどの準備 (3))
- 第9時 USE-Speak (4) (プレゼンテーションなどの準備 (4))
- 第10時 USE-Speak (5) (プレゼンテーションなどの準備 (5))
- 第11時 第2回プレゼンテーション発表会 (1)
- 第12時 第2回プレゼンテーション発表会 (2)
- 第13時 第2回プレゼンテーション発表会 (3)
- 第14時 第2回プレゼンテーション発表会の振り返り
- 第15時 Let's Listen 6

資料1: 第2回プレゼンテーション発表会企画書

○形式

- ・5人で一グループを作り, グループによる*プレゼンテーションをする。

*プレゼンテーション: 自分の持っている情報, アイディア, 主張を聞き手に伝えること。「よい」プレゼンテーションとは, 伝えたい内容が聞き手に効果的に伝わるものであり, なおかつ聞き手に感銘を与えたり, 考えるきっかけを与えたりできるものである。

○発表時間

- ・各グループの発表時間は, 5分以内とする。各発表者は, 1分以内を目安に考えるとよい。ただし, 早

口にならないよう、ゆっくり発話することを心がけること。

○発表内容

- ・クラスで、「私たちの学校をよりよくする 8 つの提言」というテーマでプレゼンテーションをする。**各グループで 1 つのことについて、*具体案を提示する**ものとする。
- ・福山附属（中学校）を考察し、よい点やこうありたいと思う点などを挙げ、クラスで意見や考えを共有する。必要があれば、授業担当者に相談のうえ、クラスや学年にアンケートをとってもよい。また、発表後に質疑応答の時間を設定する予定である。

*具体案の例：「制服を廃止する」、「全教科の授業を英語で行う」、「チャイムを鳴らす」など

○発表者の役割

- ・発表内容にもよるが、大まかな役割は、次のように考えるとよい。

第 1 発表者：具体案の提示、第 2 発表者：現状（問題点など）、第 3 発表者：案導入後の効果（どのようによくなるかなど）、第 4 発表者：案導入後のリスク（具体案のデメリットと現状の比較）、第 5 発表者：まとめ

- ・各発表者の発話の分量は、均等でなくてもよい。

○発表方法

- ・発表内容は暗唱しておき、アイコンタクトやジェスチャーなどを使い、自然な発話になるように心がけること。また、内容が聞き手に効率的に伝わるような**グラフや図などのスライドを準備**すること。手描き、または、プリントアウトしたものを別途配付する用紙に貼付し、TV サーバーで提示する予定である。

資料 2：質疑応答について

○発表者は・・・

- ・発表準備と同じくらい時間をかけて、応答準備をしておこう。使った語句の言い換えや、内容についての具体例や詳しい説明はできるようにしておきたい。
- ・笑顔で“Thank you for listening. Do you have any questions?”と言って、多くの質問を引き出そう。

○質問者は・・・

- ・何を聞いてもよい。まずは、勇気を出して手を挙げよう。
- ・自分が聞き取れなかった箇所を聞いたり、内容についてさらに詳しい説明を求めることで、議論が深まるきっかけができる。

- ・“I’d like to ask you about the second point.”などと言って、聞きたい箇所をわかりやすく伝えよう。
- ・簡単なコメントを言ってから、質問しよう。発表者の応答後は、簡単なコメントとお礼が言えたら一流。

質疑応答は、プレゼンテーションの内容について意見や考えを共有できる絶好の機会です。クラス全体で、質問しやすい雰囲気を作ろう。

【Useful Expressions】 ☞ _____ の箇所は、ほかの表現にかえて使おう。

- ・ I have a question for Mr Tanaka.
- ・ May I ask you a question, Mr Tanaka?
- ・ What does casual clothes mean?
- ・ What is the meaning of casual clothes?
- ・ I would like to ask you about your conclusion.
- ・ Please tell me the rule of “no school uniform” (again).
- ・ Can you explain the rule of “no school uniform” (again), please?
- ・ You talked about “no school uniform.” How many schools with no rules are there in Japan?
- ・ What is the merit/demerit of the rule?
- ・ Why is the rule good?
- ・ Why do you think the rule is good?
- ・ Thank you for your wonderful presentation.
- ・ I understand your proposal is very useful.
- ・ I hope our school will be better.

資料 3：発表について

- ・発表会の前に、繰り返し練習をしておこう。特に、後半の箇所はおろそかになりがち。「今日はこの箇所」、「明日はうまく言えない箇所」などと目標を決めて、計画的に練習を積み重ねたい。
- ・発表のはじめに、“I’d like to talk about the present situation.” などと言って、何について話そうとしているのかをわかりやすく伝えよう。同様に、“I will tell you two merits.” などと言って、“First” や “Second” をうまく使うとよい。
- ・ LOOK UP（顔をあげて）、SPEAK UP（大きな声）で話そう。
- ・特に伝えたい箇所は、強調しよう。たとえば、ゆっくり話したり、もう一度言ったり、その前にポーズ（間）を置くとよい。
- ・発表では、言葉によるものとそれ以外のものの両方で伝えよう。聞き手の反応を見ながら話せたら一流。

発表では、準備したことを吐き出すのではなく、内容を伝えることが大事です。原稿とまったく同じことが言えなくてもよいのです。

【Evaluation Sheet】 ☞ 発表後の「自己評価表」です。

- (1) 始まり・終わりのあいさつをしている
- (2) はじめに話題を提示している
- (3) 情報量が適当である（話題が絞り込んでいる）
- (4) わかりやすい構成である（順を追って話している）
- (5) 視覚的な工夫がある（図表・写真・グラフなど）
- (6) 声の大きさが適当である
- (7) 明瞭に話している
- (8) 理解に適切な速さで話している
- (9) ポーズ（間）の置き方がよい
- (10) 話す内容が頭に入っている（暗唱ができています）
- (11) 感情の込め方が適当である（強弱や抑揚がある）
- (12) 話すときの姿勢が適当である（自然体である）
- (13) 聞き手の目を適度に見ている（アイコンタクト）
- (14) ジェスチャーをうまく使っている
- (15) 笑顔で発表している（質問しやすい雰囲気がある）

資料4：スライドについて

- スライドは・・・
 - ・適切な枚数にしよう。あまりに多すぎると、聞き手にとって情報が多すぎて、伝わりにくい。
 - ・文字の場合、文よりも、語や語句で箇条書きにしよう。聞き手がスライドの文字を読んでしまうと、話を聞かなくなる。
 - ・後ろの席に座っている聞き手を意識して、文字の大きさや色、線の太さなどを考えよう。
 - ・グラフや図などの場合、できるだけ必要な情報だけにしよう。発表者の説明だけで、スライドは最大の効果を発揮することができる。
 - 発表者は・・・
 - ・スライドではなく、聞き手に向かって話せたら一流。
- スライドには、聞き手の理解を手助けする大きな役割があります。できるだけ文字を少なくし、グラフや図などを効果的に使って、視覚に訴えるスライドを準備しよう。

4. プレゼンテーションの振り返り

2度におたるプレゼンテーション発表会を終え、質疑応答を含めた一連の活動について振り返る。

プレゼンテーションについて、事前に生徒の発表原稿を平均2～3回ずつ指導することは、教師にとっては大きな負担であるが、生徒が話す内容を頭に入れ、自信を持

って発表できるようにするためには、必要であると感じる。生徒はグループで互いに協力しながら工夫を重ねたスライドを駆使して、プレゼンテーションをすることができた。「アイコンタクトや間をうまく使いたい」と課題を挙げながらも、「原稿を暗唱し、練習以上にうまく発表できた」などと、生徒は一定の達成感を味わうことができたようである。

【プレゼンテーションの様子】



その後の質疑応答についても、生徒はどのようなことを質問すればよいのかがわかり、あとの質疑応答例1～4のように、活発な「やり取り」が見られるようになった。公開授業を行ったクラスの質疑応答における生徒の発言総語数は、第1回（9月）が991語であったのに対して、第2回（11月）は1,541語と大きく増加した。その要因の一つとして考えられるのは、第2回で導入したリーフレットであろう。事前にリーフレットに目を通すことで、各グループの発表内容の要旨を把握し、質問を考えることが可能になる影響力は大きかったと考える。

【リーフレット（抜粋）】

B **Tablet PCs for Class**
 Tablet PCs are becoming more popular in schools in Japan. If we can see Internet images, it will help us to understand the lesson more. We don't have to carry heavy textbooks and the English dictionary. Let's make school life more convenient.

【Memo】

D **Two-month Summer Vacation**
 Summer vacation in other countries is very long, but it is very short in Japan. This is not fair. Our summer vacation should become longer. A long vacation is a good chance to start new things like reading English books, doing volunteer work, studying abroad etc.

【Memo】

（備考）リーフレットはB4版1枚で、全8グループの要旨が掲載されている。

【質疑応答例1】（生徒の発言をそのまま掲載）

A: Thank you for very interesting presentation. I have a

question for Ms B. Why summer vacation in other countries is long?

B: OK. There is an old culture. A long time ago, many students helped their parents to take care of plants; some vegetables and so on. Summer vacation was very important for farmers. So there is long vacation for other countries.

A: Thank you.

(備考) 生徒 A の質問と生徒 B の答えが、かみ合っている。どちらも事前の準備がよくできている。

【質疑応答例 2】

A: Thank you for your great presentation. I would like to question about merits. I think if your idea come true, the students must study a long time. I think some people can't concentrate during the class. Mr B, do you have any idea to solve this problem?

B:

C: Sorry, I answer the

A: OK.

C: I have a good idea. The students are giving our homework from our teacher on Tuesday. And we do our homework on Wednesday. So teachers can prepare for their classes. So the students can take high quality classes. So we can be smart.

A: Thank you. Your idea sounds good.

(備考) 戸惑う生徒 B の代わりに生徒 C が答えており、グループ内で協力する様子が見られる。もし生徒 A がはじめに“I have a question for Mr B.”と言っていたら、生徒 B は戸惑わずに済んだのかもしれない。

【質疑応答例 3】

A: I have a question for Mr B.

B: Yeah.

A: You said our school uniform is not cool. If our school uniform is very cool and very cute, do you want to wear them?

B: Sorry, one more time, please.

A: If our school uniform is very cute and very cool, do you want to wear?

B: Yes.

A: Do you like this school uniform than casual clothes?

B: Our uniform is expensive.

A: Thanks.

(備考) 全体的にやや単調な印象を受けるが、生徒 A は 4 回目の発言で 2 つ目の質問をしている。[やり取り] を続けようとする意欲が感じられる。

【質疑応答例 4】

A: Thank you for your great presentation. I have a question for Mr B. How many blackboard will you put?

B: Fukuyama Fuzoku has three buildings and three floors.

But B Building's three floor is no class. So there are eight floor. So I put eight blackboard in this school.

A: Thank you. Your idea is very great.

(備考) 生徒 B の発言, “B Building's three floor” (“B 棟 3 階”) は正確な表現ではないが、ほかの生徒は理解できているようだ。結論→説明の順に話すほうが、聞き手にとってわかりやすい。

5. おわりに

授業中の言語活動では、英語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にすることが、いかに重要であるかを改めて実感させられた。第 2 回プレゼンテーション発表会のテーマ, 「私たちの学校をよりよくする 8 つの提言」は、想像以上に生徒にとって現実的な場面設定となったようである。第 2 学期の授業アンケートを通して、生徒はそのことを教えてくれた。また, 「自分の学校について真剣に考えた」, 「グループで考えた提言を学友会総会で本当に提案したいと思った」という生徒の振り返りコメントからは、たとえば, 「クラス内で最も説得力のある提言」を決める投票を行うことで、発表を評価する参考になるかもしれないと感じた。

最後に、私は「中学生が本当に即興で英語を話せるようになるのだろうか」と, 「話すこと [やり取り]」についてやや懐疑的である。それは、単に確固たる指導法がわらずにいるからである。これまでの指導では、生徒に課す予習や授業で扱う教材に意図的に教科書の題材を記憶させ、そこから生徒が互いの考えや気持ちなどを伝え合う [やり取り] が可能になると信じてきた。今後も対話的な言語活動を重視した英語授業の創造を目指して、試行錯誤を続けていきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』2017 年
- ・東京書籍『中学校外国語 新学習指導要領を読み解く -6 つの観点で考えるこれからの学び-』2017 年
- ・John Hughes & Andrew Mallett *Successful Presentations* OXFORD UNIVERSITY PRESS, 2012 年
- ・三省堂『NEW CROWN 1 ENGLISH SERIES New Edition』(2015 年文部科学省検定済教科書)
- ・東京書籍『NEW HORIZON 1 English Course』(2011 年文部科学省検定済教科書)